

## 土木技術者よ、夢とロマンを

\* 猪股 純



### 1. はじめに

価値観の変容、少子高齢化、地球温暖化、社会資本ストック量の増大、災害の多発、イノベーション等様々な周辺状況の変化が進む中で、社会資本整備・管理の技術に関して最近思うことをいくつか書き綴ってみたい。

### 2. 土木技術者に対する人々の信頼を回復するために

姉齒事件（建築物の耐震偽装事件）や相次ぐ公共事業に関わる談合事件、さらには3人の知事が逮捕されるまでに至る一連の不祥事で、建設分野に携わる人々に対する人々の信頼は地に落ちてしまったと感じる。

われわれ土木技術者は、危機感を持って、人々の信頼の回復に取り組んでいかなければならない。今は、思い切った変革を行う大きなチャンスなのかもしれない。

現在、「公共事業の品質確保に関する法律」など優秀な技術力をベースにして社会資本整備を進める枠組みが構築されつつある。また、官製談合防止法等により、外からの規制による制度的改変が進められている。しかし、土木技術者にとって、自分たちの技術的な良識に基づく内なる取り組みがさらに求められると思う。技術者個人への信頼の集積が技術者全体の信頼へとつながる。以下にいくつか思いつく点を並べてみる。

#### (1) 技術者は紳士たれ

利に左右されない自身の哲学を持った高潔な人格者でありたい。学会の倫理規定等では技術者に求められる倫理の項目が事細かに規定されているが、要は自分の良心に恥じない品格ある行動を取れるかどうかである。「細かい規定は覚える必要がない。まず技術者は紳士たれ。」である

#### (2) 夢とロマンを持って人々に語りかける

自身の仕事に誇りを持って人々にわかりやすくその熱い思いを語りかける、そんな姿勢が大切。昔は「男は黙って…」と不言実行が誠実のしるし

とされたが、今は「発信」することが大切である。

#### (3) ビジョンを持つ

技術者の特長は「抽象的な言葉で無く具体的な形あるビジョンを示せること」だと思う。目先の効果に惑わされない長期の見通しを持った将来の地域のビジョンを人々に提示する。

#### (4) 仕事を楽しむ

「仕事を楽しむ」ことが周りを明るくさせ、技術者の魅力をアップする。

#### (5) ムラ社会から脱皮する

外から見ると土木技術者は蛸壺社会に生きる視野の狭い人間に見えるらしい。いろいろな価値観を持つ多様な人々との出会いや意見交換の場を持つことによって良識とバランス感覚を持った技術者になる。

#### (6) 捨て去る勇気と挑戦する気概を持つ

古い仕事の枠組みや既得の権限に必要な以上に固執しない。不要なものや必要性が薄れたものを捨て去り変革する勇気と気概が必要。

社会資本整備やそれに携わる技術者に対する人々の信頼をたちまち回復する特效薬は存在しない。品確法等のシステム作りや、個々の技術者の地道な取り組みによって少しずつ確実に信頼の回復ができるのではないか。がんばりましょう。

### 3. 技術の革新と継承

#### 3.1 技術の空洞化—夢とロマンを失った技術者たち

2007年問題がクローズアップされている。団塊の世代の大量退職が技術の空洞化を生むという。社会資本整備の分野も例外ではない。むしろ他の分野以上に深刻かもしれない。

公共事業に対する世論の逆風、他分野と比較した賃金や労働条件の悪さ等が影響して建設分野を志望する優秀な若者が少なくなっている。ある大手進学塾の偏差値データを見ると、土木環境部門が文系理系すべての部門を通じて最低だという。

そもそも社会資本整備の分野は、国土を創造し、地域の発展の基盤を作る夢のある分野である。夢とロマンを持って進む優秀な人材が少なくなった

\*国土交通省国土技術政策総合研究所企画部長

現況は悲しむべき状態である。

入札契約方式が多様化する中、特に官庁技術者は入札契約のための設計書作りや、契約のための企業評価等デスクワークに大きな時間を割かれ、現場で技術を磨く時間が少なくなっている。人員削減などの影響もあり、ゆとりがなくなり、OJTを通じ先輩から後輩へと引き継がれてきた技術継承のシステムも変容しつつある。

### 3.2 技術の継承システムの再構築に向けて

いくつかの対案を列記する。

#### (1) 建設分野の魅力度アップ

建設分野で実施される各事業を魅力のあるものにする。そのためには真に必要とされる事業を重点的に実施することが重要であり、市民参加型事業の拡大、事業評価等による重点化等を行う。その際、人々に地域の発展の夢を与えるロマンのあるプロジェクトを企画することが大切である。

また、低賃金と労働条件の改善が大切であり、建設産業の近代化と産業構造の改変を行う。併せて業界に潜むといわれる談合やダンピング体質の一掃も重要である。業界の再編やリストラにもつながる痛みの伴う改革であるが、若者たちがこの分野を目指すようになるには是非とも越えなければならぬ大きな山である。

(2) 産学官で技術者の育成継承システムの構築を  
産学官が協力して技術者を育成し技術を継承するシステムを作っていくことが必要である。官民交流法が施行され民のノウハウを行政の中で活用するためのシステムができたが、もっと包括的な技術者の交流育成システムについて考えていく必要がある。

また、技術者が継続的に組織内で評価される人事評価システム、研修システムの改善、技術資格制度の組織内での評価・活用、積算等の抜本的効率化による仕事の重点のシフト等様々な工夫が必要である。

#### (3) イノベーション-新技術の開発・導入促進を

旧来の技術を守っていくだけでは技術の発展は望めないし技術発展のない分野に若者が魅力を感じるはずもない。新技術が現場において積極的に導入される風土を育成する必要がある。

公共事業は、大量一括生産の製造技術と異なり、新技術の導入を行うインセンティブが少なく、技術発展がめざましい分野とは言いがたい。最近では総合評価方式の導入や、NETIS（新技術情報提供システム）等制度的に改善のきざしが見られるが、建設分野での技術革新をさらに促進する必要

がある。

また、若手技術者の意欲ある技術提案が積極的に取り入れられ、「達成感」が得られやすい仕組みづくりを進める必要がある。

現在政府のイノベーション戦略に基づいて国交省でも検討会を作り様々な検討を行っているが、その成果にも期待したい。

#### (4) 技術の継承に配慮した人事システムを

これまで専門以外は知らないI型人間を作りすぎたのではとの反省から、近年、技術者の人事交流が積極的に行われ、成果をあげてきたが、その一方で、専門知識や技術力の継承の面での弊害が見られるとの指摘がある。

今後は本人の適性や専門分野の高度さ、産学官の役割分担なども踏まえ、きめ細かく技術の継承に配慮した人事システムの検討が必要である。

## 4. おわりに

社会資本整備は国土や地域の発展を担う夢のある分野であり、技術者の先輩諸氏は、ロマンと気概を持って取り組んできた。日本人はその恩恵の上に今の豊かで便利な暮らしを営んでいる。

夢とロマンを持って今後後輩となる若者たちに「魅力ある背中」を見せられるようにひとがんばりしなければいけないと思う。

最後に、一言。

国総研も発足6年目が過ぎようとしている。安全安心、環境、地域の活力、暮らし等の分野で、社会資本の整備や管理に係る各政策について技術面からの政策支援、技術支援等を進めてきたが、今後とも、さらに、関係の皆さん方の期待に答えられるよう活動していきたい。今後ともよろしくお願いします。